



■ 実行委員長インタビュー ■

## アジア最大級の「食」の総合展 最先端の技術・製品・サービスが集結

FOOMA JAPAN 2013 実行委員長 中 章 氏

「FOOMA JAPAN 2013 国際食品工業展」が6月11日(火)から14日(金)の4日間、東京ビッグサイト東展示棟1～6ホールで開催される。36回目となる今回の開催テーマは「集う、出会う。食の未来が広がる。」。開催規模は前回開催を大きく上回る723社2,973小間で、会期中の来場者数は約10万人を見込む。出展も、原料処理から食品製造・加工、エンジニアリング、鮮度管理、包装、搬送など幅広く、質量ともに食の総合展にふさわしい内容。開催を目前に控えた同展について、実行委員長の中章氏にインタビューし話を聞いた。

——昨年、政権交代を契機に急速に経済環境の改善が進んでいます。景気動向にあまり大きく左右されないとされる食品産業でも先行きに明るい見通しを持つ企業が増えているようです。今回のFOOMA JAPANも前回に引き続き出展社募集スタート後間もなく早々に満小間となるなど、関係者の期待の大きさがうかがえます。開幕を目前に控えたご感想をお聞かせください。

中：FOOMA JAPANは、食品製造プロセスのあらゆる分野を網羅したアジア最大級の「食」の総合トレードショーとして着実に成長して参りました。経済状況に左右されることなく、例年10万人規模の安定した集客を誇り、出展社の皆様からも出展効果において高い評価をいただいております。36回目を迎える今回は、出展社数が過去最大の723社となり、FOOMA JAPAN史上、これまでにない規模での開催となります。FOOMA JAPANは、特定の分野に集中することなく、「食」にかかわる全ての分野を網羅した類を見ない食品機械の総合展示会であり、新製品・新技術の発表の場として、これまで以上に高い期待を多くの関係者の方々からお寄せいただいております。主催者一同、身の

引き締まる思いです。

——日本経済ならびに食品機械市場の現状はいかがでしょうか。

中：日本経済は現状、着実に改善に向かっていると思います。食品機械市場は景気動向による変動が少ないと言われますが、私個人としてはむしろフォローの風が吹いていると見ています。食品産業は原料輸入比率が高いため、昨今の為替相場はコストアップ要因となっているほか、TPP参加に対する不安の声も聞かれますが、それは自社の需要を国内市場に限定し、守ろうとの意識が強すぎるからではないでしょうか。昨今は、世界市場においても日本の「食文化」や「食品機械」に対する評価と関心が高まっており、食品も機械も国外に打って出る時期が到来していると思います。実際、それを裏付けるようにFOOMA JAPANへの海外からの来場者も増加傾向にあります。こうした状況に鑑み、今回のFOOMA JAPAN 2013では、海外来場者の利便性を高めるため、英語、韓国語、中国語を話せる出展社のスタッフにバイリンガルバッジを配布いたします。インターナショナルラウンジのサービスも一層の充実を図っています。

——食品機械の国内需要は少子高齢化等の影響で縮小を免れないとの見方もありますが、どうお考えでしょうか。

中：それもやや悲観的に過ぎるように感じます。「食」に対する安全・安心の追求はより一層厳しさを増していますし、産業競争力の視点から自動化が今後さらに加速していくものと見ています。今回のFOOMA JAPAN 2013でも市場や消費者のニーズである「食の安全・安心」を担保した上で、最先端のテクノロジー、製品、サービスの展示がなされますが、近年は食品製造プロセスの効率化・自動化、高度の安全・衛生管理などに対する来場者の関心が高く、これらニーズに合致するものとして、産業用

ロボット専門メーカー以外でもロボットを扱う出展社が増えています。このことは、ロボットに象徴されるような効率化・自動

化設備の需要が徐々に増えていくことの証明とも言えるのではないのでしょうか。FOOMA JAPAN 2013では、この点もぜひご注目いただきたいと思います。——今回の出展の傾向と特徴についてお聞かせください。

中：FOOMA JAPAN 2013も原料処理から各種食品製造・加工、エンジニアリング、鮮度管理・品質保持、包装・充填、計測・分析・検査、衛生対策・管理、環境対策・リサイクル、素材・原料・調味料等々、食品製造プロセスに関わるあらゆる機器、製品、サービスが出展されます。用途分野も菓子・パンや食肉・水産物、農産物、調理食品、飲料・乳製品、麺類、発酵・醸造など、ほぼ全ての食品を網羅していますので、あらゆる食品産業の皆様にお越しいただきたいと思います。

——企画・イベントも充実していますね。

中：6月13日のFOOMAビジネスフォーラムでは、経済アナリストの森永卓郎氏を講師にお迎えします。また、アカデミックプラザには、国内から45研究室、海外から18研究室が参加します。ご好評の「EHEDGセミナー」も開催いたします。

——最後に出展社と来場予定者に一言。

中：皆様のご支援により、おかげさまでFOOMA JAPAN 2013開催に漕ぎ着けることができました。主催者一同、食品関連業界の皆様の信頼に応え得る質の高い展示会を目指して参ります。FOOMA JAPAN 2013がビジネス成功の契機になれば幸いです。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

